

## 船舶インシデント調査報告書

平成30年4月18日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

インシデント種類	運航不能（燃料供給不能）
発生日時	平成29年8月21日 17時00分ごろ
発生場所	沖縄県竹富町竹富島南西方沖 竹富島南水路第5号灯標から真方位261° 1,940m付近 （概位 北緯24° 18.4′ 東経124° 04.4′）
インシデントの概要	プレジャーボートラッキーIIは、航行中、船外機が運転できなくなり、運航不能となった。
インシデント調査の経過	平成29年8月24日、主管調査官（那覇事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート ラッキーII、1.1トン
船舶番号、船舶所有者等	296-24209 沖縄、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 東、風力 5、視界 良好 海象：波高 約2.0m 竹富町には、平成29年8月21日04時13分に波浪注意報が発表され、本インシデント時も継続中であった。
インシデントの経過等	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、知人2人（以下「同乗者」という。）を乗せ、沖縄県石垣市浜崎マリーナに向けて竹富島南西方沖を航行中、船外機が停止した。</p> <p>船長は、燃料系統を確認して燃料油が燃料油タンク（容量約45ℓ）に約15ℓあったものの、ゴム製のプライマリポンプの硬化により送油できないことを認め、家族を介して海上保安庁に救助を要請した。</p> <p>船長は、本船を錨泊させ、同乗者と共に巡視艇に救助されて浜崎マリーナに到着した。</p> <p>本船は、翌日、船長の友人の船でえい航され、その間、船長が新たなプライマリポンプに交換した後に燃料系統から空気抜きを行って船外機を復旧させ、浜崎マリーナに入港した。</p> <p>船長は、ふだん、船外機を始動させる際、プライマリポンプで燃料系統の空気抜きを行っておらず、同ポンプを約2年前に交換したものの、点検を行っていなかったことで劣化していることに気付かなかった。</p>
分析	本船は、竹富島南西方沖を航行中、船外機の燃料系統に空気が混入

	<p>したことから、船外機に燃料油が供給されず、船外機が運転できなくなり、運航不能となったものと考えられるが、船長から情報が十分に得られなかったため、空気が混入した状況を明らかにすることはできなかった。</p> <p>船外機は、プライマリポンプが劣化していたことから、燃料系統に空気が混入した際、船長が空気抜きを行うことができなかったものと考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本インシデントは、本船が、竹富島南西方沖を航行中、船外機の燃料系統に空気が混入したため、船外機に燃料油が供給されず、船外機が運転できなくなったことにより発生したものと考えられる。</p> <p>船長が、船外機の燃料系統に空気が混入した際、空気抜きを行うことができなかったのは、船外機のプライマリポンプが劣化していたことによるものと考えられる。</p>
<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等による被害の軽減に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プライマリポンプの作動状況を点検し、定期的に交換すること。</li> </ul>